

塘研究室現地調査報告

10月1日に裏磐梯（ニチレイ社有地）にて現地調査を実施しました。調査参加者は塘研究室4年生の佐藤椋一君と塘の2名です。月に2回ずつ実施している佐藤君の卒業研究の調査（裏磐梯地域での蝶類のセンサス調査）は今月で終了予定です。

そろそろ虫たちは冬越しに向けて活動を低下させる時期に入ったようです。ほとんどの種が成虫越冬しないトンボの仲間もアカネ属（アキアカネ、マユタテアカネ、マイコアカネ、キトンボ）とアオイトトンボしか見られませんでした。一番南の3の池では、キトンボの産卵が見られました。甲虫の仲間も見られなくなりましたが、黄色の地に白い紋をもつテントウムシの仲間が2種類見られました。写真ではほぼ同じ大きさですが、シロトホシテントウ（5-6 mm）の方がシロホシテントウ（3-5 mm）よりもやや大型です。一方、秋に個体数を増やすヒメガガンボ類など、ハエの仲間が目立ちました。

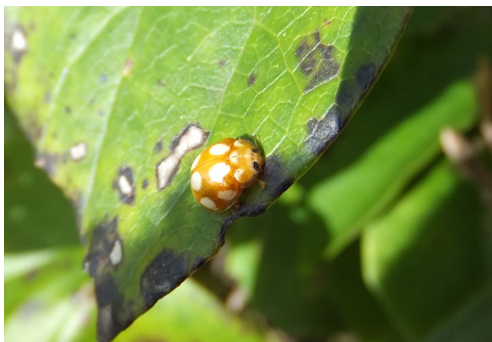
ニチレイ社有地での調査終了後、塘は訳あってナガレカタビロアメンボを採集しに五色沼湖沼群の柳沼に行きました。昨年までナガレカタビロアメンボが多産した場所では、池の栓が抜けたように柳沼の水が石倉沼に向かって流出していく様子を見ることになりました。この場所に流水性のヒメシロカゲロウ、モンカゲロウ、コオニヤンマが分布することが不思議でしたが、このように一時的に流水域になることが原因のようです。ナガレカタビロアメンボは流出部にはなっていない別の場所で、越冬中のものを叩き起こし、無事に採集することができました。



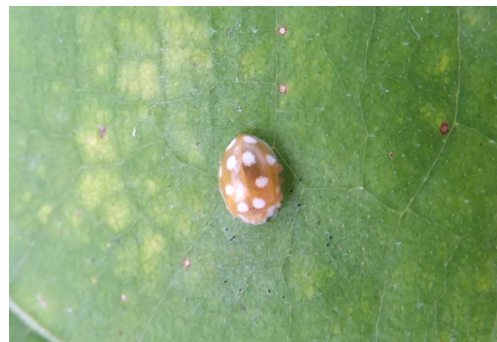
3の池でのキトンボ産卵



ケバエの仲間（♀）



中型のシロトホシテントウ



小型のシロホシテントウ



この時期一番多いヒメガガンボの仲間



柳沼の流出部（奥に向かって流出する）